

# 津久見市役所の庁舎移転・建設と新たな観光・ 休憩施設に関する市民意識調査報告書



2021年3月

津久見市商工観光・定住推進課

## 目次

1	調査の概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	実施内容	1
1.2.1	調査対象	1
1.2.2	調査方法	1
1.2.3	調査期間	1
1.2.4	回収状況	1
1.2.5	調査結果の表示方法	1
2	調査の結果	2
2.1	回答者の属性	2
2.1.1	年代	2
2.1.2	性別	2
2.1.3	居住地区	3
2.1.4	津久見市での居住歴	4
2.1.5	職業	4
2.1.6	車の免許の有無	5
2.2	市役所について	6
2.2.1	市役所への来訪頻度（全体）	6
2.2.2	市役所への来訪頻度（属性別）	7
2.2.3	市役所への来訪時の主な交通手段（全体）	10
2.2.4	市役所への来訪時の主な交通手段（属性別）	11
2.2.5	市役所への来訪目的	14
2.2.6	今の市役所の施設への不満	15
2.2.7	新しい市役所において、特に重要なこと	16
2.2.8	市役所移転時の利用頻度と利便性について（全体）	17
2.2.9	市役所移転時の市役所の利用頻度と利便性（属性別）	19
2.3	新たな観光・休憩施設について	25
2.3.1	新たな観光・休憩施設があると良いもの	25
2.3.2	新たな観光・休憩施設の想定される利用頻度	28
2.3.3	周辺地域の観光経験の有無について	29
2.3.4	周辺の地域を観光した際の不満について	30

# 1 調査の概要

## 1.1 調査目的

津久見市では市役所の庁舎移転・建設と新たな観光・休憩施設を建設する計画を進めており、これらのことについて、市民の皆様のご意見やお考えを把握することを目的に調査を実施した。

## 1.2 実施内容

### 1.2.1 調査対象

津久見市在住の18歳以上の市民の中から、1,800名を抽出。

調査対象の抽出方法は2020年7月1日現在の津久見市住民基本台帳に基づき、地区の人口に応じて、年齢、性別で層化し無作為抽出を行った。

### 1.2.2 調査方法

郵送により質問紙を配布し、郵送または電子申請により回収した。

### 1.2.3 調査期間

2020年7月22日～2020年8月17日

### 1.2.4 回収状況

発送数 1,800票

実発送数 1,793票（住所不明で7名に送付できなかった）

回収数 659票（郵送539票、インターネット120票）

回収率 36.8%

なお、回収した全てを有効回答とした。

### 1.2.5 調査結果の表示方法

- ・ 回答数は主に凡例中に「n=○○○」と表記している。
- ・ 図の百分率（%）は、小数点第2位を四捨五入した値を標記している。そのため、項目ごとの割合を足し合わせた際に、100.0%にならない場合がある。
- ・ 本報告書の図の回答選択肢については、趣旨が変わらない程度に簡略化している場合がある。
- ・ 自由記述回答については本報告書においては割愛している。

## 2 調査の結果

### 2.1 回答者の属性

#### 2.1.1 年代

回答者の年齢は、「50歳代」が21.7%と最も多く、次いで「40歳代」(20.3%)、「60歳代」(20.3%)が多かった。

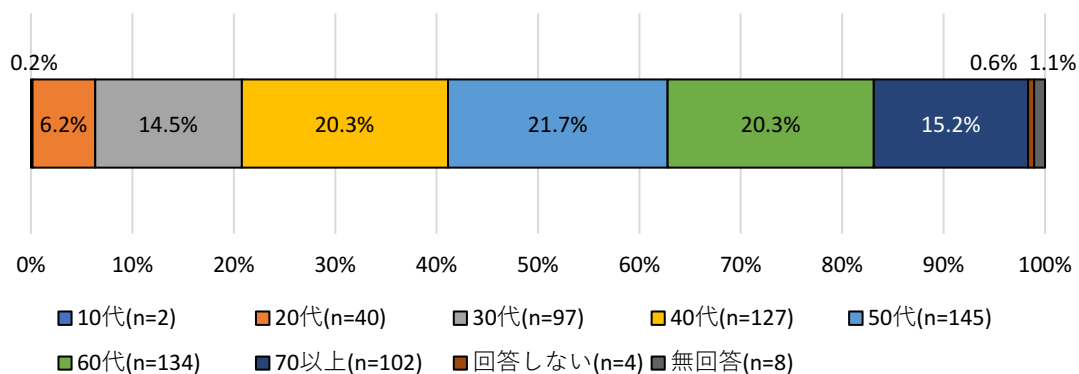


図 1 回答者の年代 (n=659)

#### 2.1.2 性別

回答者の性別は、「女性」が59.3%と最も多く、次いで「男性」が36.9%であった。

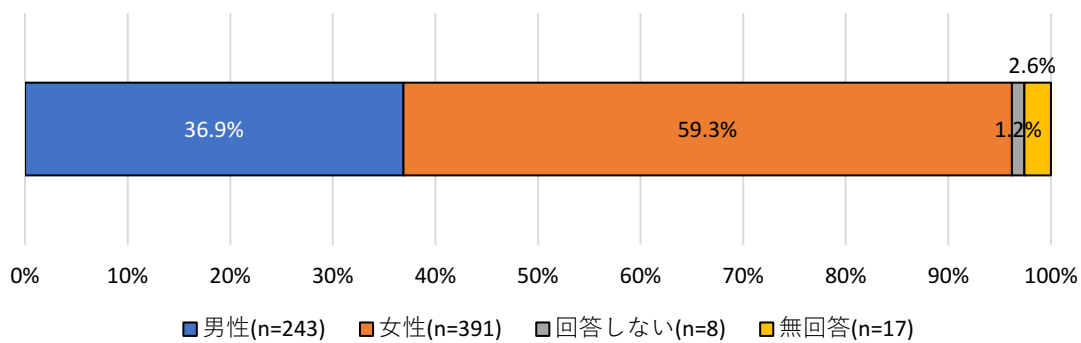


図 2 回答者の性別 (n=659)

### 2.1.3 居住地区

回答者の居住地区について 6 つの区分に分けた選択肢を設け回答を得た。区分については図 3 のとおりである。回答者の居住地区は、「津久見地区」が 24.3%と最も多く、次いで「青江地区」(21.9%)、「岩屋・宮本地区」(15.9%) と続いた。



図 3 居住地区の区分けについて

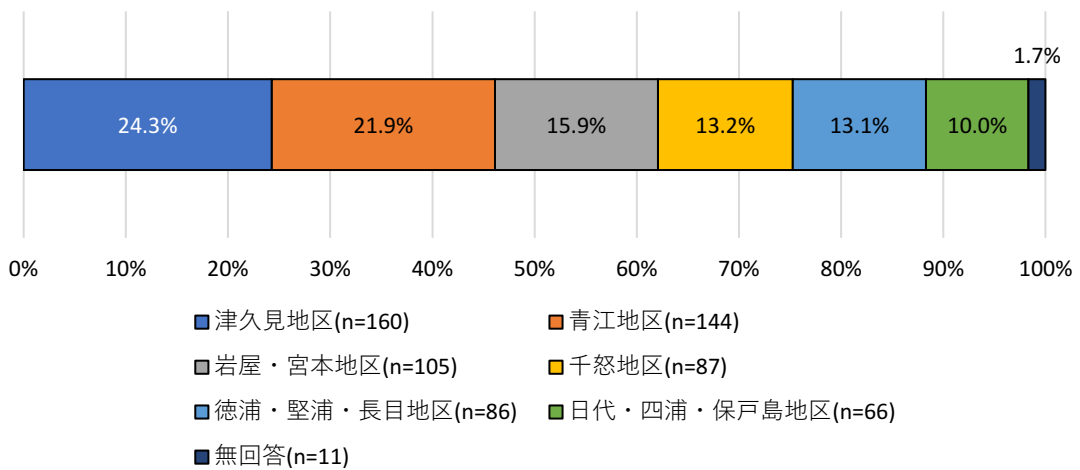


図 4 回答者の居住地区 (n=659) ※回答者数が多い順

### 2.1.4 津久見市での居住歴

回答者の津久見市での居住歴は「30年以上」が66.5%と最も多く、次いで「25年以上30年未満」が5.9%、「1年以上5年未満」、「20年以上25年未満」が5.8%と続いた。

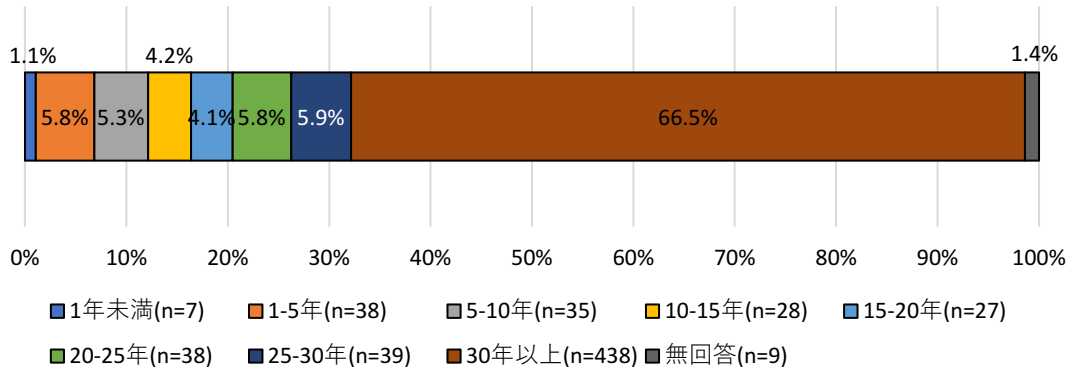


図 5 回答者の津久見市での居住歴 (n=659)

### 2.1.5 職業

回答者の職業は、「会社員」が31.9%と最も多く、次いで「無職」が15.9%、「パート・アルバイト」が15.2%と続いた。

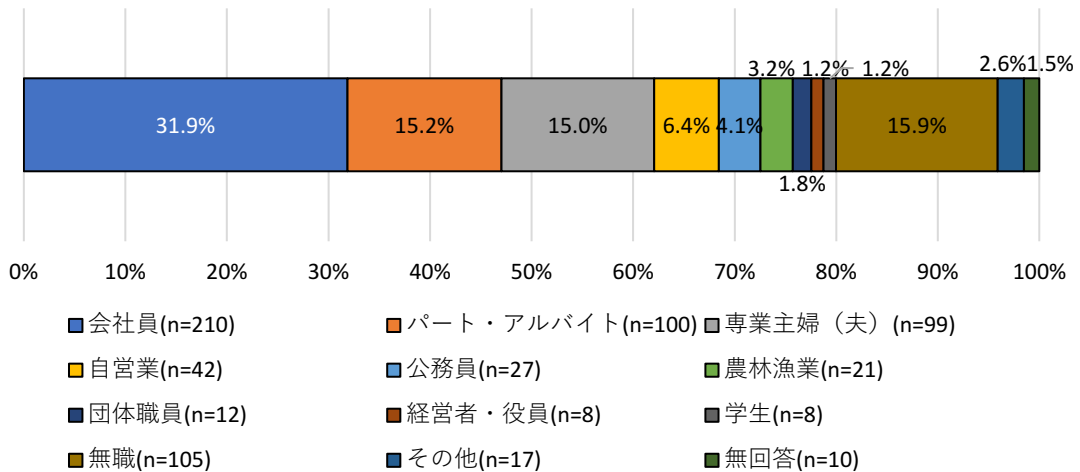


図 6 回答者の職業 (n=659) ※回答数が多い順

### 2.1.6 車の免許の有無

回答者の車の免許の有無について、「免許あり（自由に使える自動車あり）」が80.1%と最も多く、「免許なし」が11.2%、「免許あり（自由に使える自動車なし）」が7.4%であった。

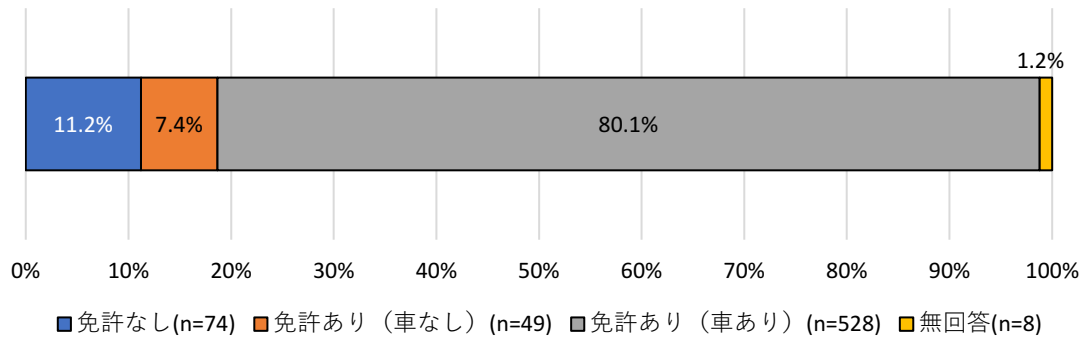


図 7 回答者の車の免許の有無 (n=659)

## 2.2 市役所について

### 2.2.1 市役所への来訪頻度（全体）

問 2 市役所には、ふだん、どのくらい行きますか。（○は1つだけ）

回答者の市役所への来訪頻度は「年に1回以上」が53.7%と最も多く、次いで「数年に1回程度」が29.3%、「月に1回以上」が11.1%と続いた。なお、「ほぼ毎日」とした15名のうち10名が職業を「公務員」としており、この10名については津久見市職員であることが推測された。

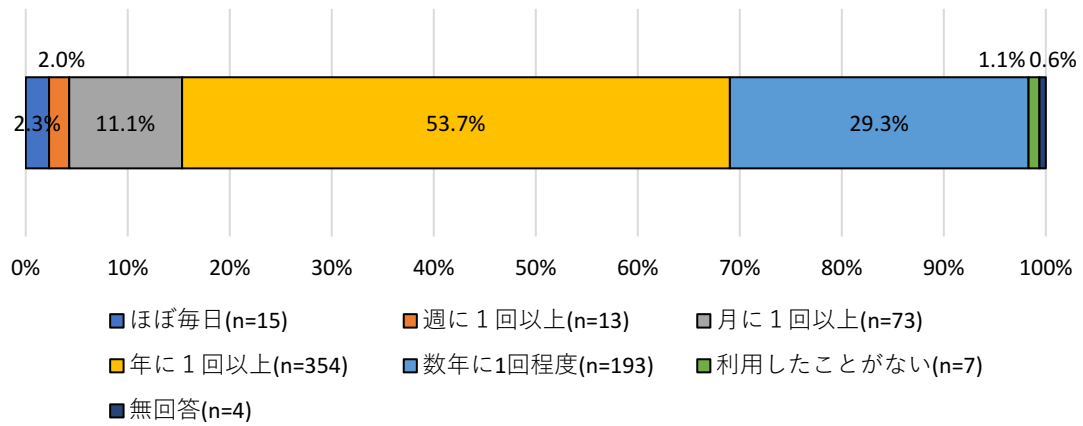


図 8 市役所への来訪頻度（n=659）



## 2.2.2 市役所への来訪頻度（属性別）

市役所への来訪頻度について調査回答者の属性別（「年代」、「居住地区」、「車の免許の有無」）に整理した。なお、年代については10歳代が2名だったので、分析から除外した。

年代別について図9に示した。30歳代以上の年代においては「年に1回以上」が最も多い結果となった。20歳代においては「数年に1回程度」が最も多かった。また、30歳代以上の年代では「月に1回以上」との回答が1割以上みられた。

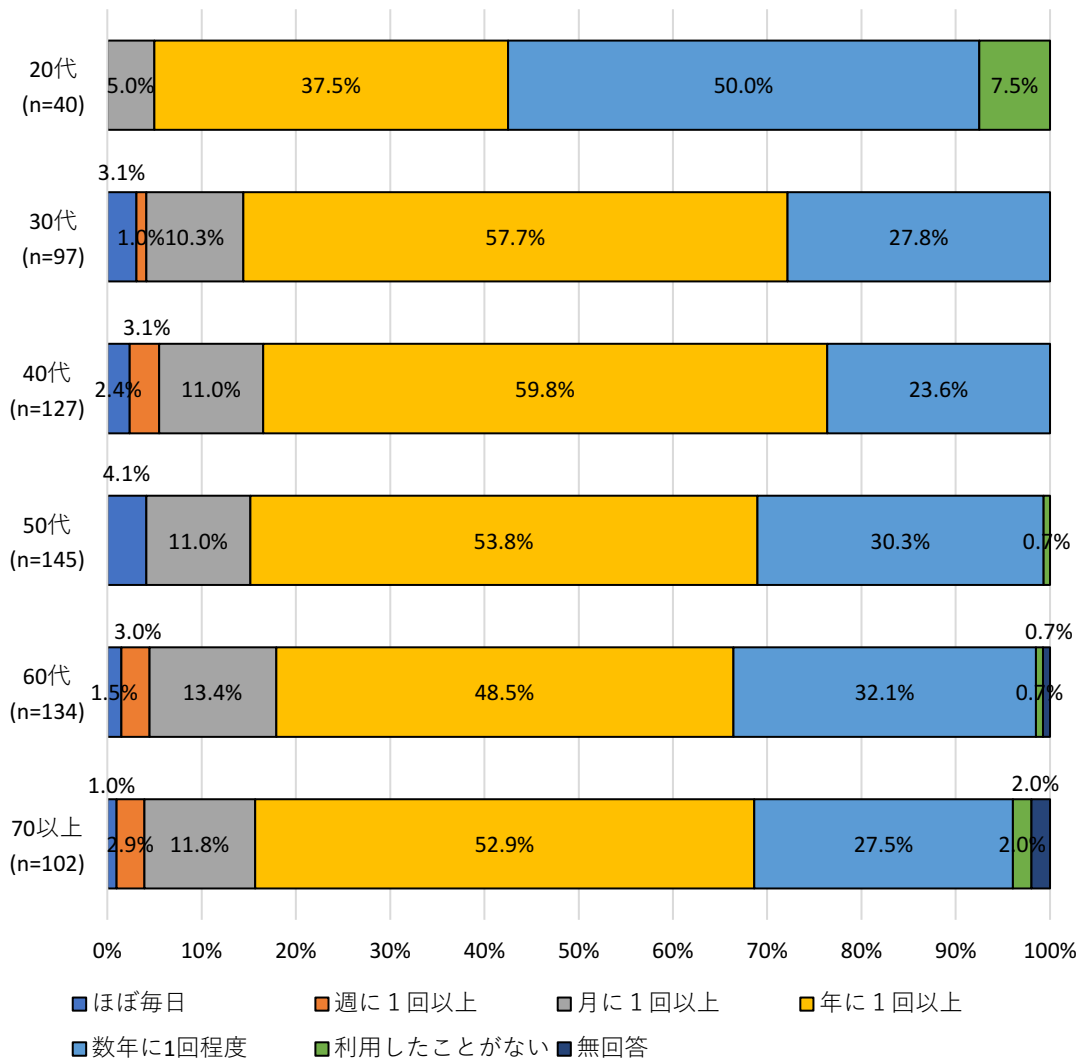


図9 年代別における市役所への来訪頻度

居住地区別について図 10 に示した。千怒地区から徳浦・堅浦・長目地区については「年に 1 回以上」が多い結果となったが、日代・四浦・保戸島地区については「数年に 1 回程度」が 50.0%と最も多かった。

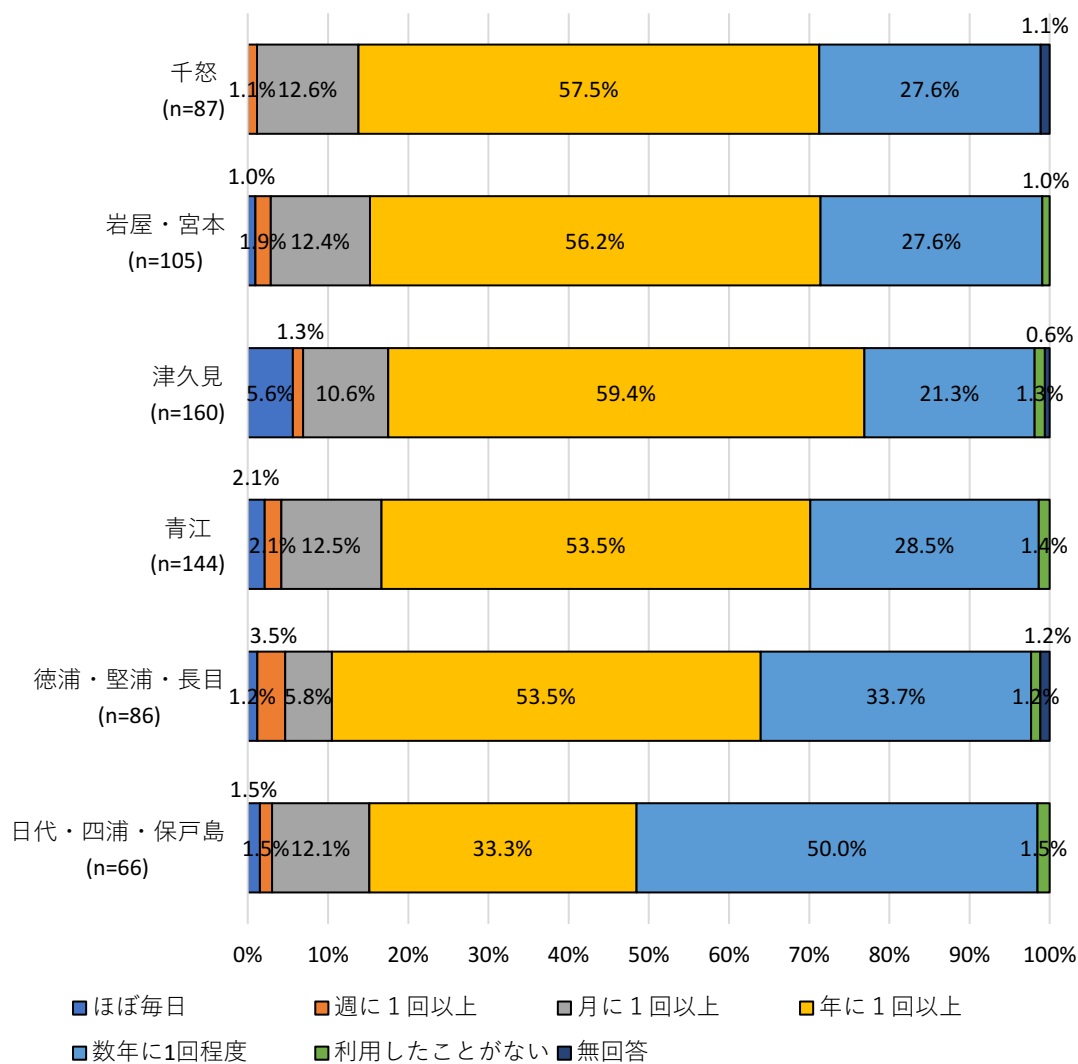


図 10 居住地区別における市役所への来訪頻度

免許の有無別について図 11 に示した。いずれにおいても「年に 1 回以上」が多い結果となった。

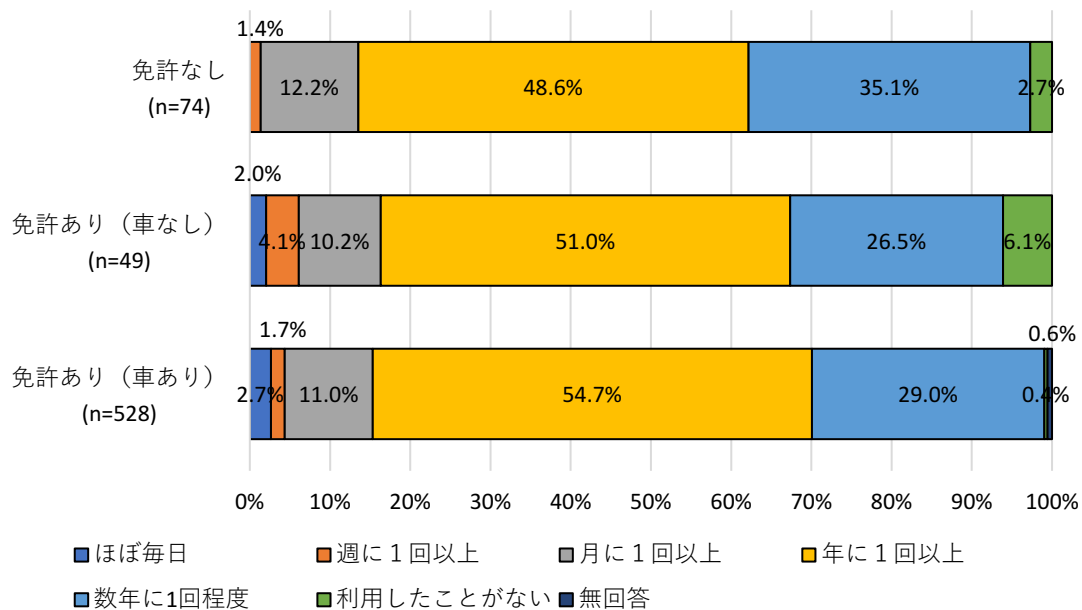


図 11 免許の有無別における市役所への来訪頻度

### 2.2.3 市役所への来訪時の主な交通手段（全体）

問 2-2 市役所に行くときに、利用するおもな交通手段は何ですか。（○は1つだけ）

市役所の来訪頻度の設問（問 2）において、「市役所を利用したことがない（n=7）」とした回答者を除く、回答者 652 名を対象に市役所への来訪時の主な交通手段を問うた。その結果、「自家用車」が 84.2%と多く、次いで「自転車」が 6.0%、「徒歩」が 5.7%と続いた。公共交通機関での来訪は「バス」が 1.4%（n=9）と少なく、JR についても選択肢として設けていたが、回答者はいなかった。

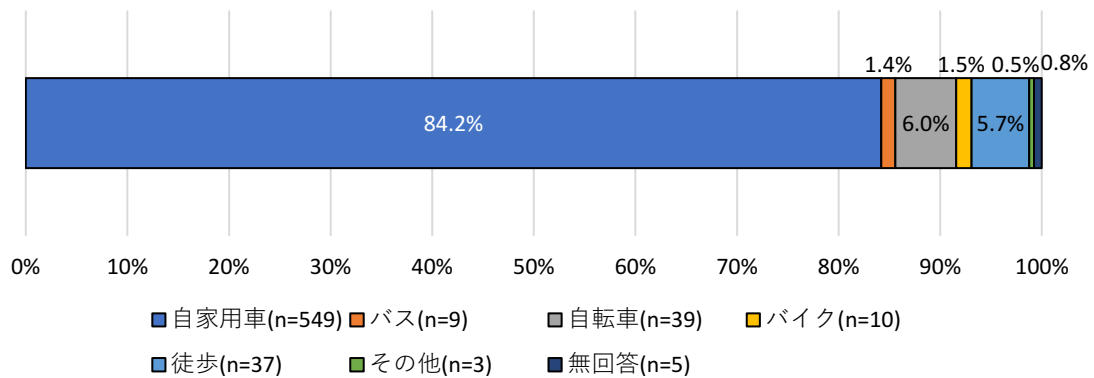


図 12 市役所への来訪時の主な交通手段（n=652）

### 2.2.4 市役所への来訪時の主な交通手段（属性別）

年代別について図 13 に示した。20 歳代から 60 歳代においては自家用車を用いて市役所に来訪するという回答が 8 割以上であったが、70 歳以上においては 69.0%であり、徒歩 12.0%、自転車が 11.0%と続いた。

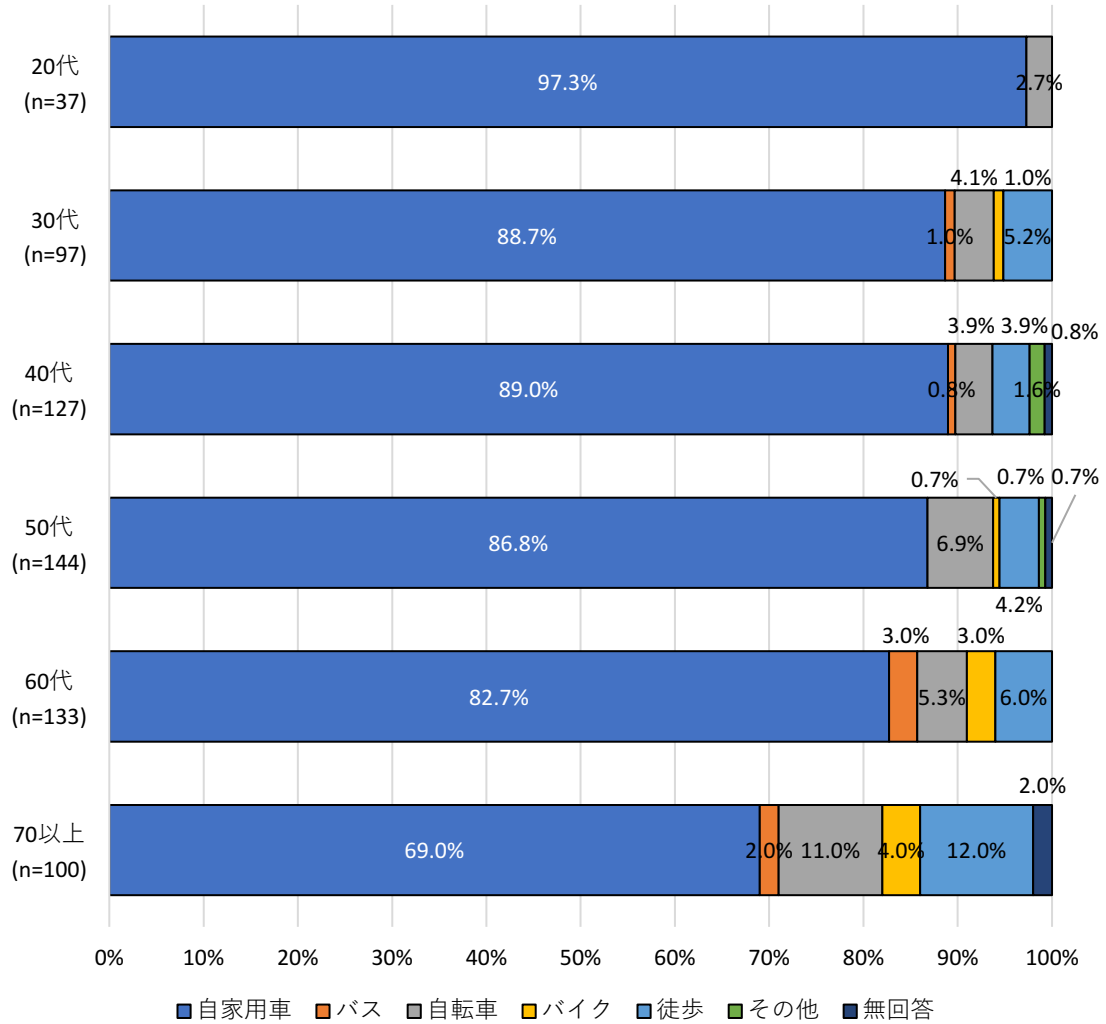


図 13 年代別における市役所への来訪時の主な交通手段

居住地区別について図 14 に示した。いずれの地区においても自家用車が最も多かった。特に、青江地区、徳浦・堅浦・長目地区においては自家用車を用いて市役所に来訪するという回答が 9 割以上であった。

津久見市役所が位置する岩屋・宮本地区については徒歩が 21.2%、自転車が 15.4%と他の地区と比較して多かった。また、日代・四浦・保戸島地区について、徒歩が 13.8%と多かったが、この多くは保戸島に居住する市民であると推測される。

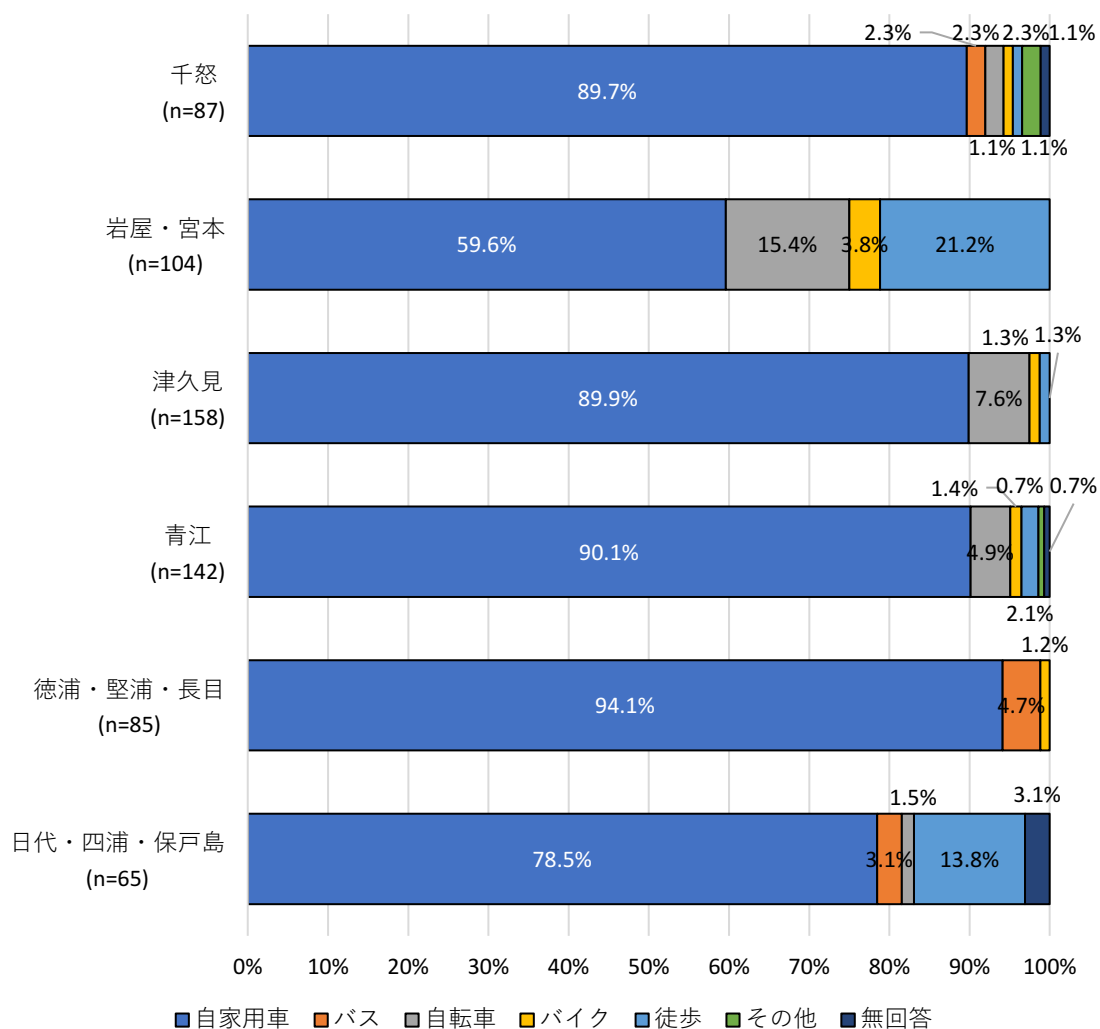


図 14 居住地区別における市役所への来訪時の主な交通手段

免許の有無別について図 15 に示した。「免許なし」とした回答者については自家用車が 34.7%と最も多かったが、これは同居者などの送迎によるものと考えられる。次いで、徒歩が 25.0%、自転車が 23.6%と続いた。バスを利用していたのは「免許なし」とした回答者のみであった。

「免許あり（自由に使える自動車なし）」とした回答者についても自家用車が最も多かったが、自転車、徒歩と続いた。「免許あり（自由に使える自動車あり）」とした回答者については 92.6%が自家用車を利用し、市役所に来訪していることが示された。

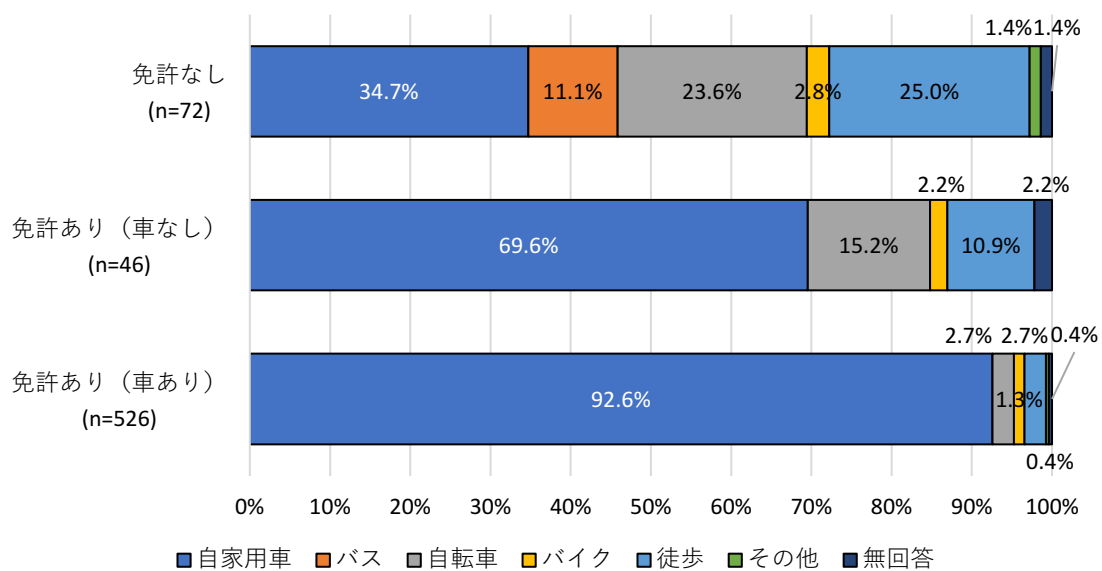


図 15 免許の有無別における市役所への来訪時の主な交通手段

## 2.2.5 市役所への来訪目的

### 問 2-3 市役所に行く目的は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

市役所の来訪頻度の設問において、「市役所を利用したことがない (n=7)」とした回答者を除く、回答者 652 名を対象に市役所への来訪目的を問うた。その結果、「戸籍や住民票のこと」が最も多く、次いで「選挙の投票」、「税金のこと」、「福祉のこと」と続いた。

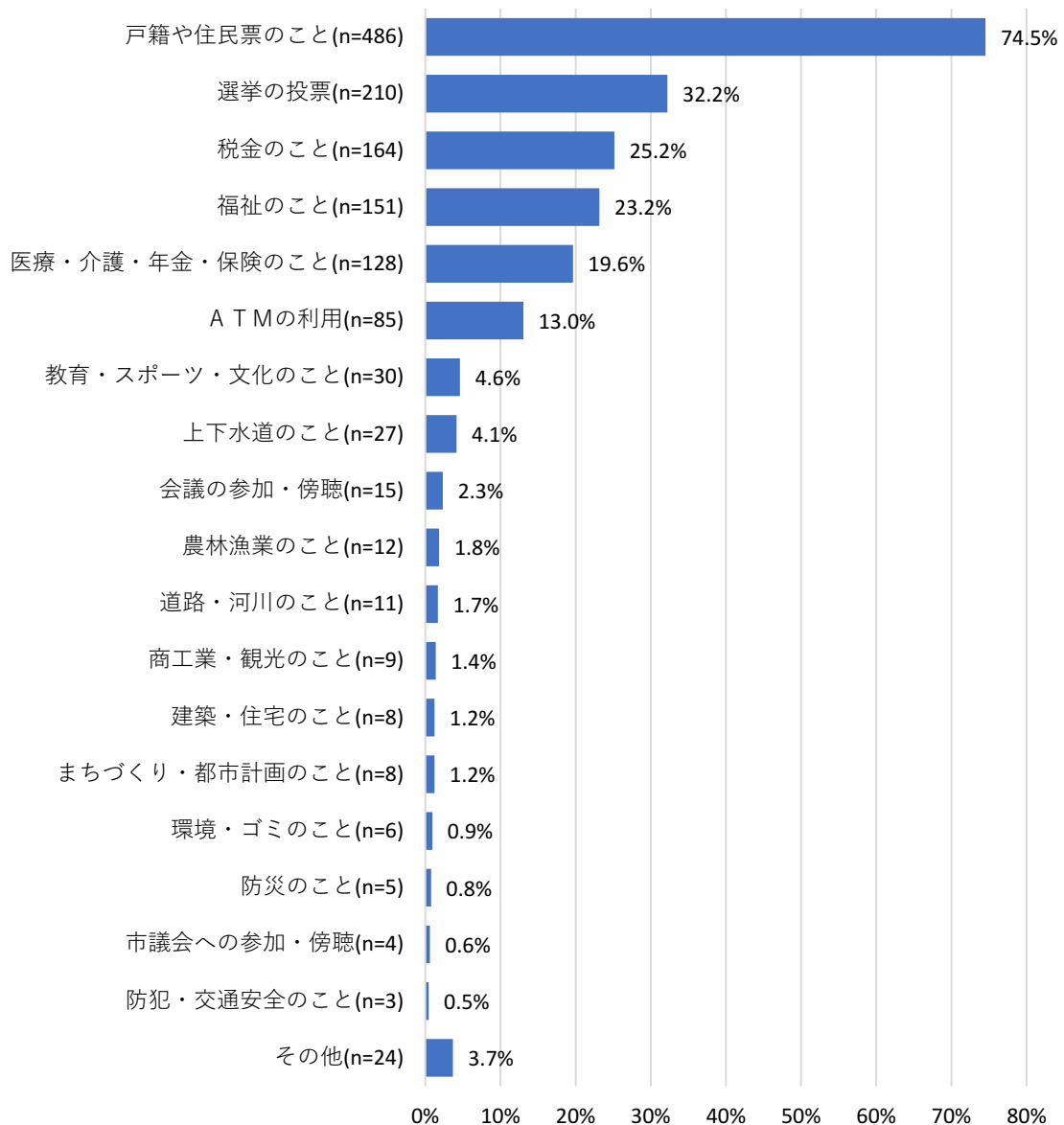


図 16 市役所への来訪目的 (複数回答可)

※割合は回答対象者 (n=652) に占める割合



## 2.2.6 今の市役所の施設への不満

### 問3 今の市役所の施設への不満があれば教えてください。(あてはまるもの全てに○)

市役所の来訪頻度の設問において、「市役所を利用したことがない (n=7)」とした回答者を除く、回答者 652 名を対象に今の市役所の施設への不満を問うた。その結果、「駐車場が使いづらい」が最も多く、次いで「トイレが快適でない」、「窓口や部署がわかりにくい」、「災害への備えが不足している (地震、津波など)」、「照明が暗い」と続いた。

一方、「特に不満は感じない」という回答が 139 件 (21.3%) みられた。

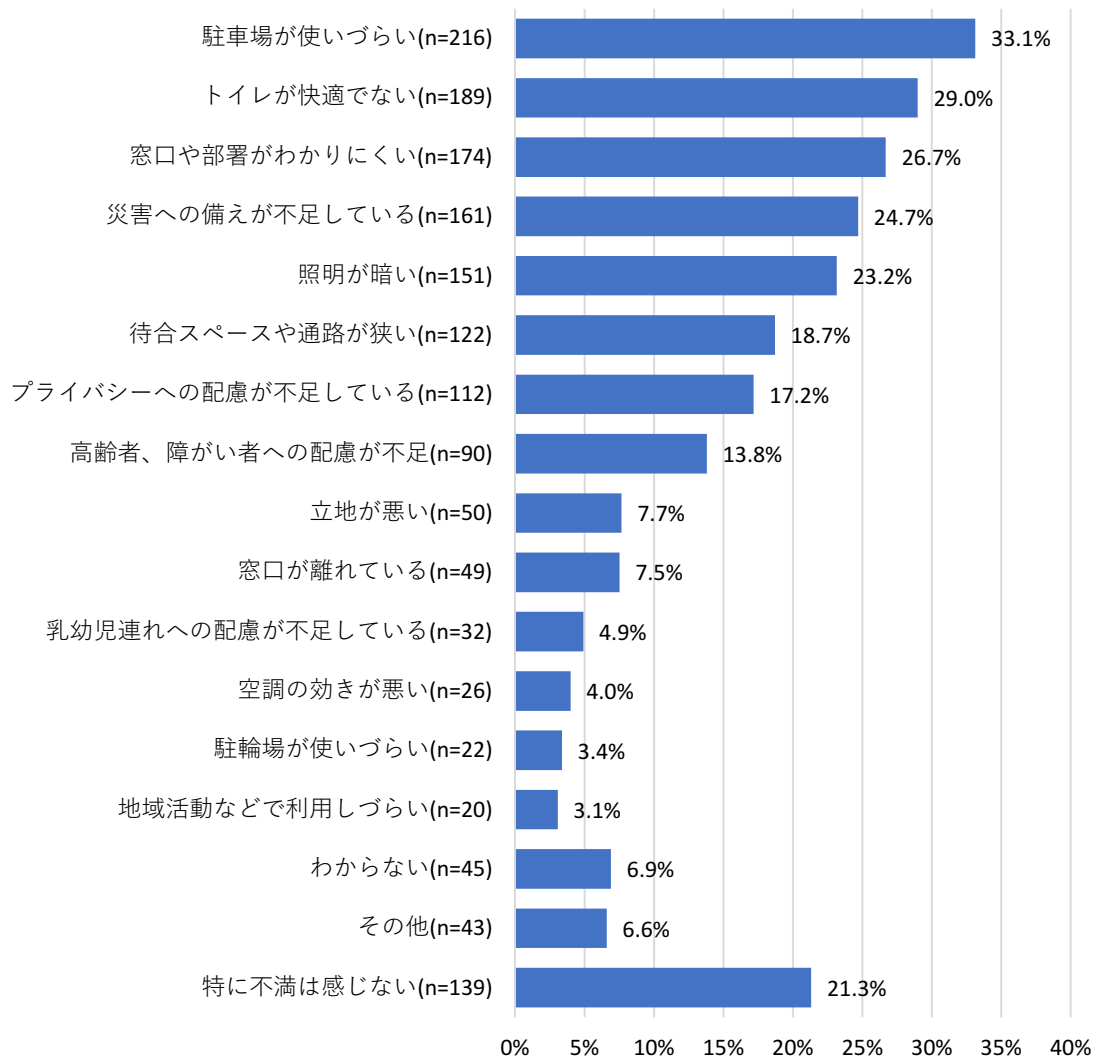


図 17 市役所の施設への不満 (複数回答可)

※割合は回答対象者 (n=652) に占める割合

## 2.2.7 新しい市役所において、特に重要なこと

問 4 新しい市役所では、特になにが重要だと思いますか。(特に重要と思うものを3つまで)

「災害への備えをしっかりとする ((地震、津波など))」が最も多く、次いで「窓口や部署を分かりやすくする」、「駐車場を使いやすくする」、「高齢者、障がい者に配慮する」、「トイレを快適にする」と続いた。

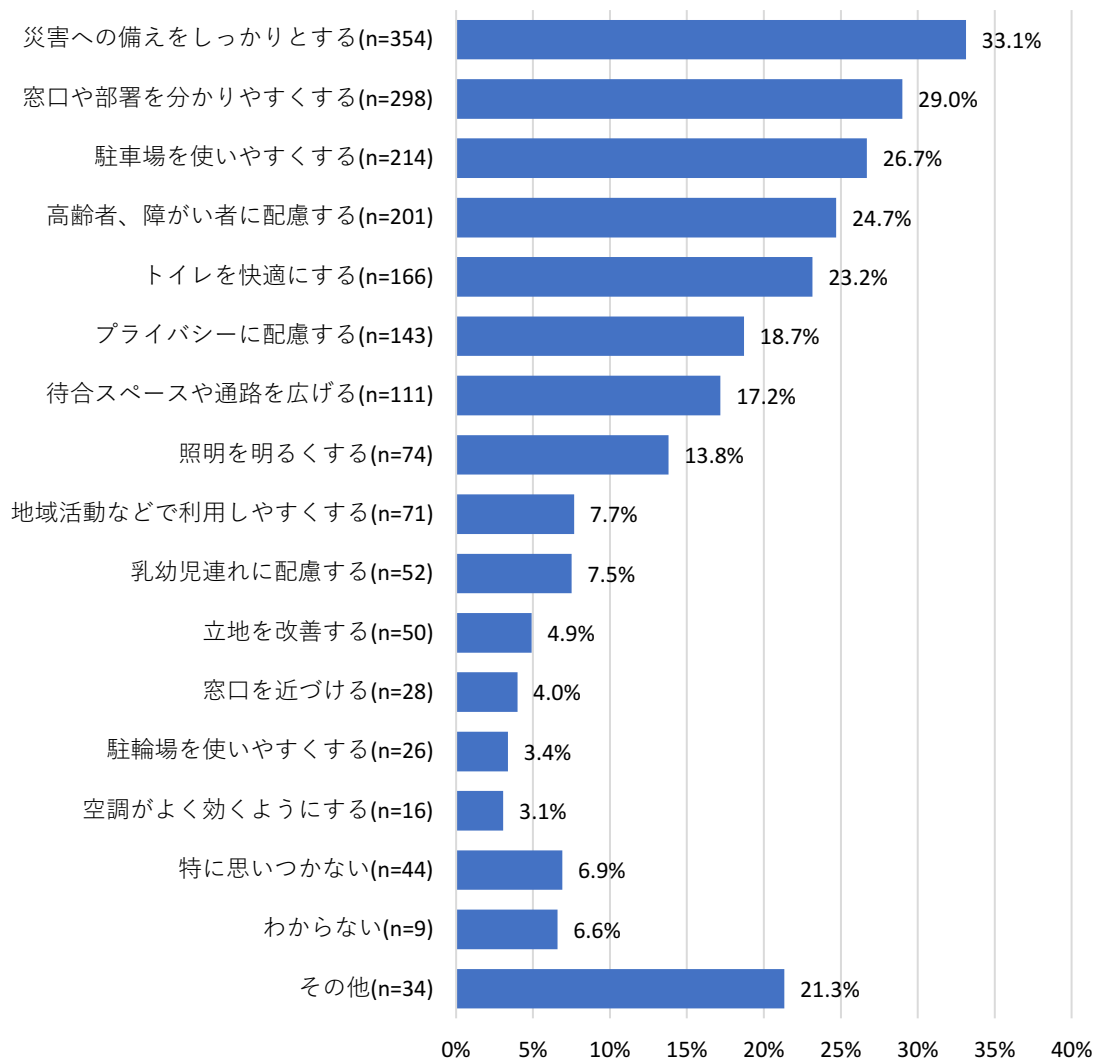


図 18 新しい市役所において特に重要なこと (3つまで回答可)

※割合は有効回答数 (n=659) に占める割合

## 2.2.8 市役所移転時の利用頻度と利便性について（全体）

問 5 新しい市役所の建設が、津久見港埋立地に予定されています。計画が実現したとき、あなたは市役所などの利用頻度はどうなると思いますか？また、利便性はどのようになると思いますか？

市役所移転時の利用頻度と利便性について、市役所、スーパーマーケット、商店街、飲食店、つくみん公園ごとに問うた。その結果、利用頻度について、「変わらないと思う」がどの項目においても多かった。「増えると思う」という回答に注目すると、市役所が 13.2%、スーパーマーケット 17.3%、商店街が 4.9%、飲食店が 8.3%、つくみん公園が 16.7%であった。市役所が津久見港埋立地に移転することで、そこに隣接するスーパーマーケット、つくみん公園の利用頻度が高まるとする回答が他と比較し多かった。

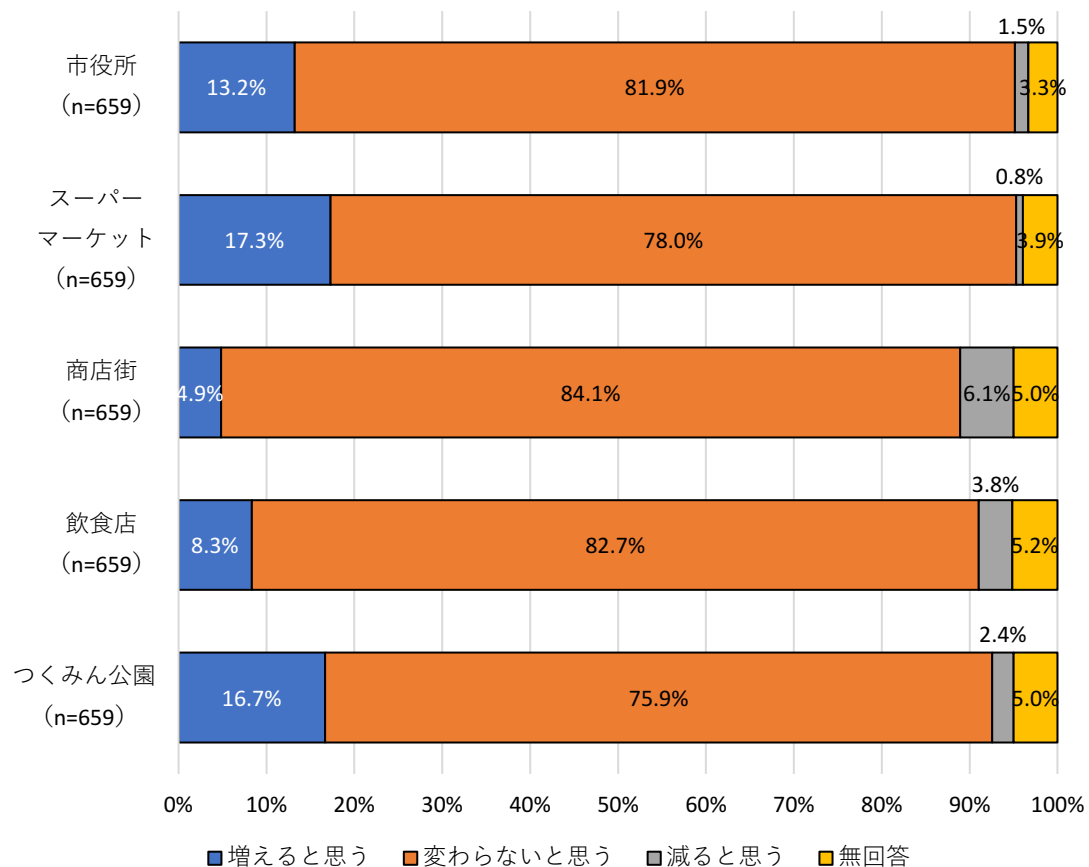


図 19 市役所移転時の施設ごとの利用頻度について

利便性について、市役所においては「便利になると思う」という回答が 52.5%と過半数を超えていた。また、「便利になると思う」という回答に注目すると、スーパーマーケットが 25.3%、商店街が 9.3%、飲食店が 11.1%、つくみん公園が 20.6%であった。いずれの項目についても「便利になると思う」という回答数が「不便になると思う」という回答数を大きく上回っており、市役所の移転による利便性の向上が示唆される結果となった。

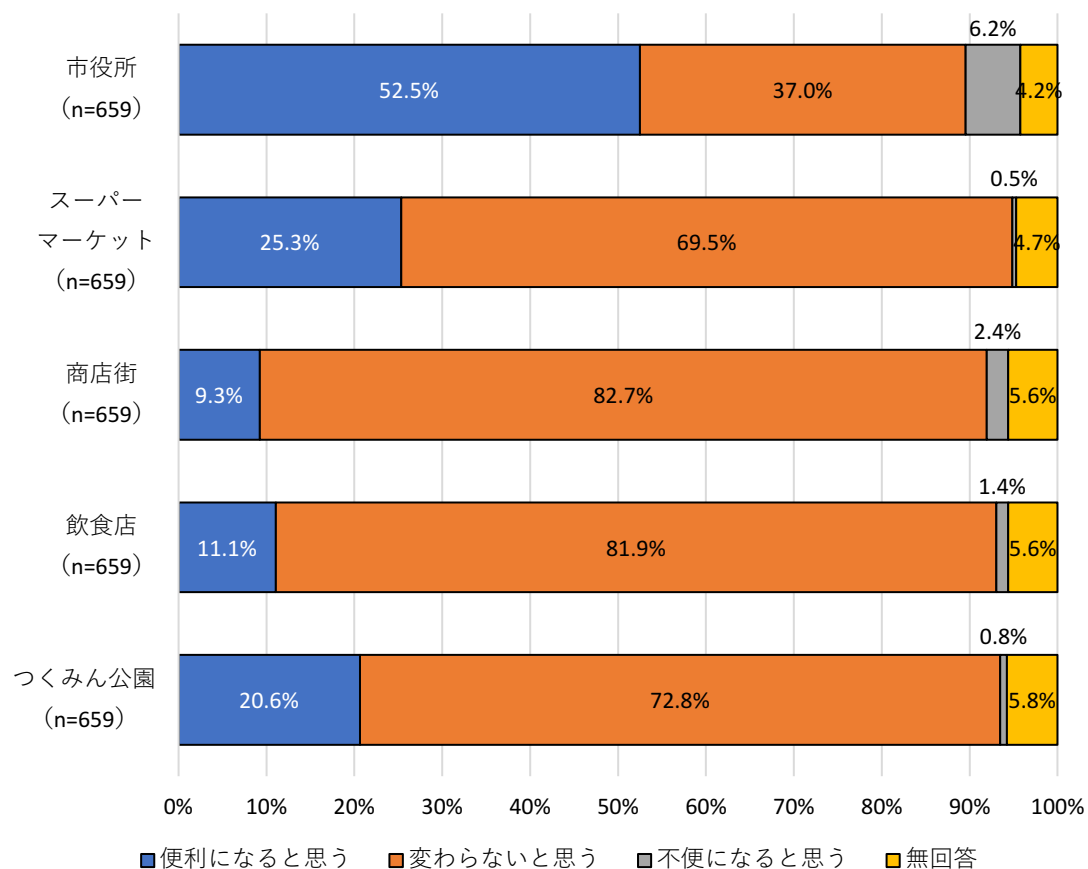


図 20 市役所移転時の施設ごとの利便性について

## 2.2.9 市役所移転時の市役所の利用頻度と利便性（属性別）

### (1) 利用頻度

市役所移転時の市役所の利用頻度について属性別で整理した。年代別について図 21 に示した。「増えると思う」という回答は70歳以上で最も多く18.6%、次いで60歳代が17.9%と続いた。

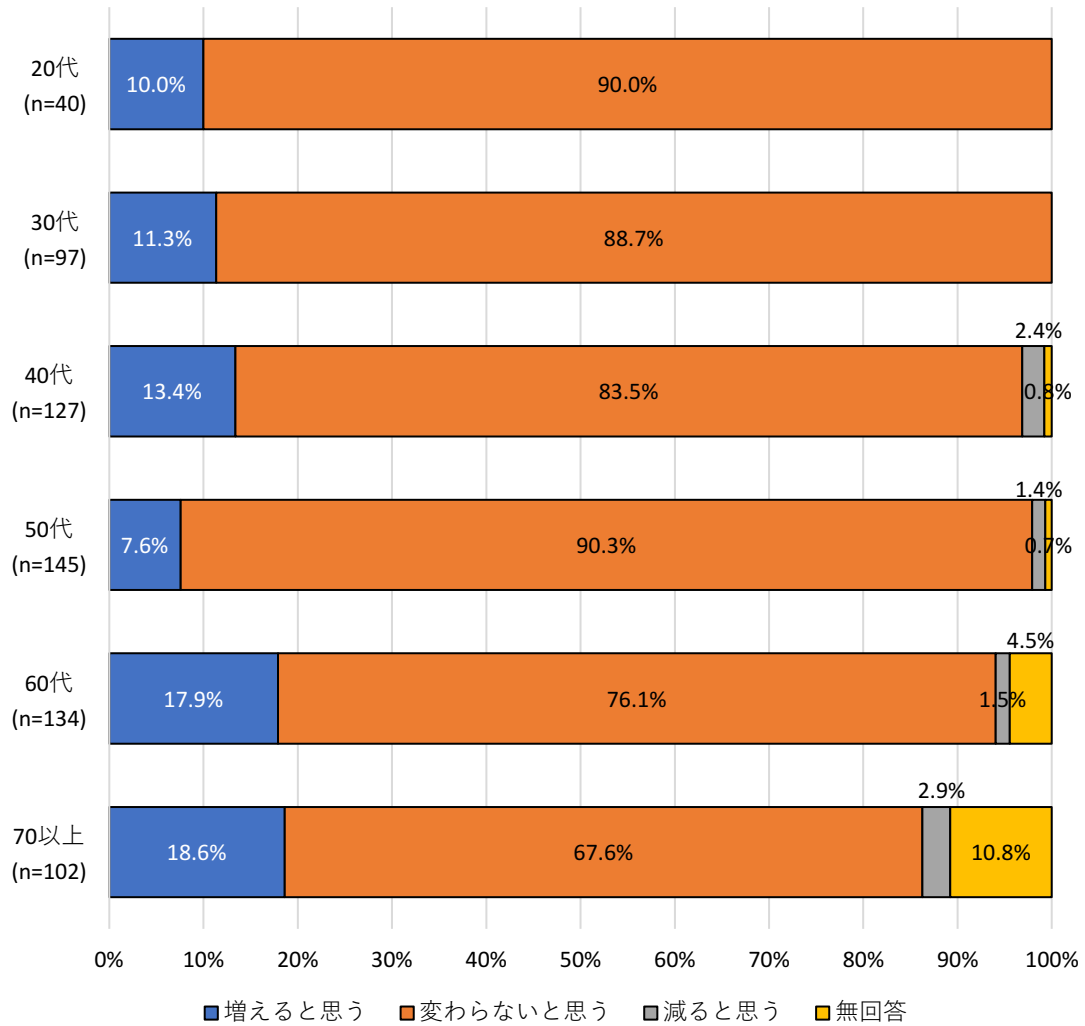


図 21 年代別における市役所移転時の市役所の利用頻度

居住地区別について図 22 に示した。「増えると思う」という回答は千怒地区で最も多く、次いで徳浦・堅浦・長目地区が続いた。「減ると思う」という回答は現在の市役所が位置する岩屋・宮本地区で 5.7%みられたが、同地区においても 13.3%の回答者が「増えると思う」と回答しており、いずれの地区においても「増えると思う」という回答が「減ると思う」という回答を上回っていた。

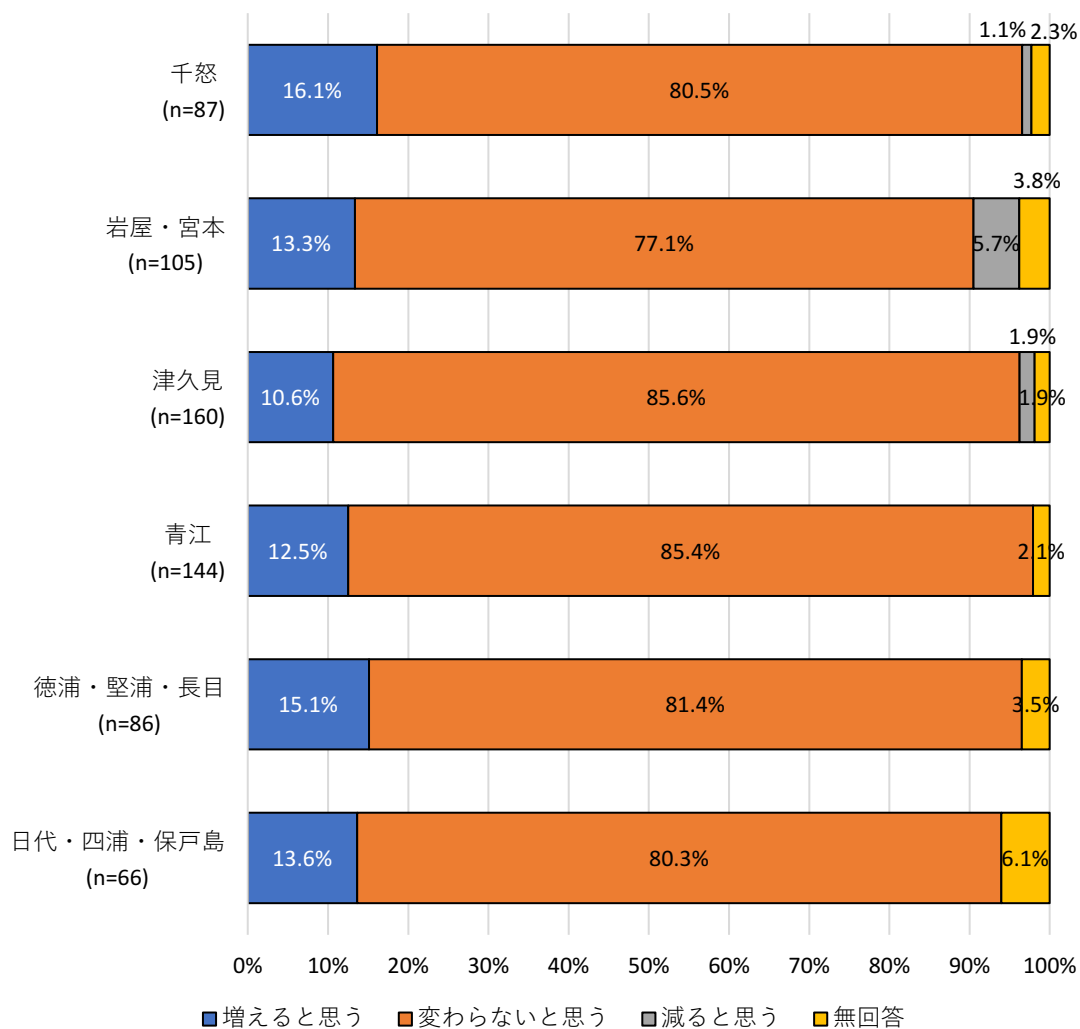


図 22 居住地区別における市役所移転時の市役所の利用頻度

免許の有無別について図 23 に示した。「増えると思う」という回答は「免許なし」とした回答者において 24.3%と多かった。いずれにおいても「増えると思う」という回答が「減ると思う」という回答を上回っていた。

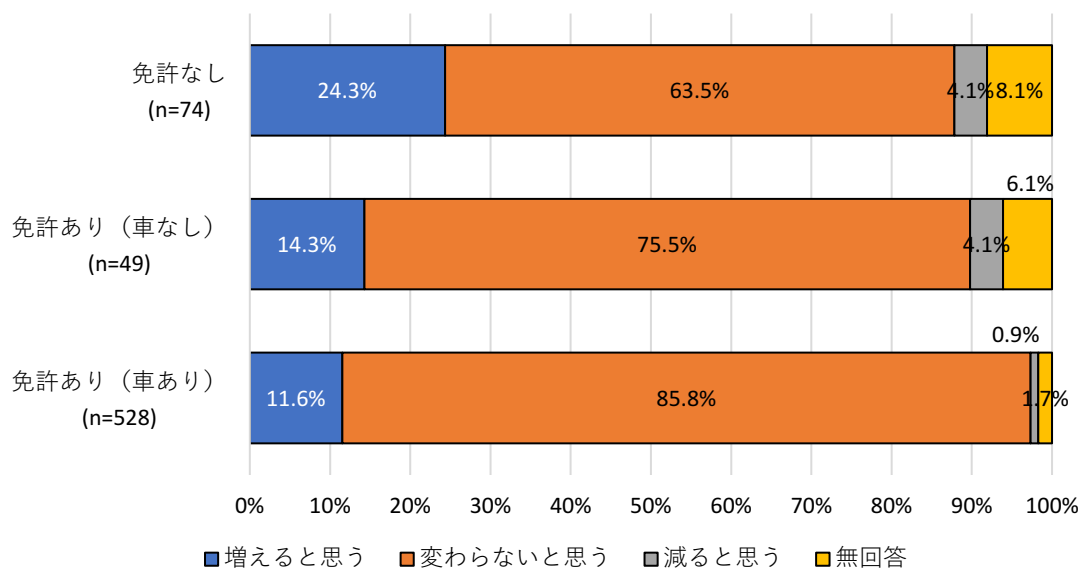


図 23 免許の有無別における市役所移転時の市役所の利用頻度

## (2) 利便性

市役所移転時の市役所の利便性について属性別で整理した。年代別について図 24 に示した。「便利になると思う」という回答は 50 歳以上で最も多く、次いで 70 歳以上が続いた。

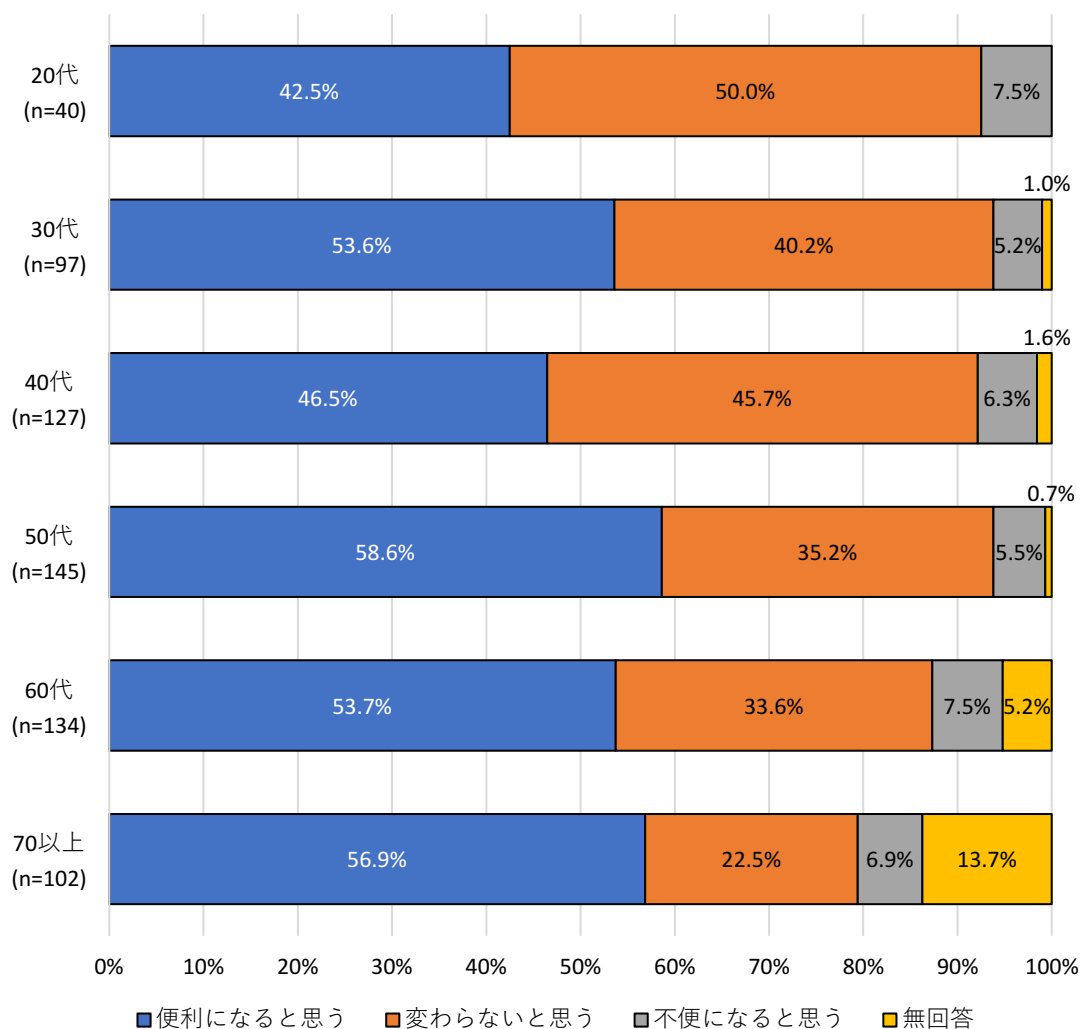


図 24 年代別における市役所移転時の市役所の利便性



居住地区別について図 25 に示した。「便利になると思う」という回答は千怒地区で最も多く、次いで徳浦・堅浦・長目地区、日代・四浦・保戸島地区が続いた。「不便になると思う」という回答は現在の市役所が位置する岩屋・宮本地区で 14.3%、近接する津久見地区で 13.1%みられたが、岩屋・宮本地区においても 43.8%、津久見地区では 34.4%の回答者が「便利になると思う」と回答しており、「不便になると思う」の回答を上回っていた。

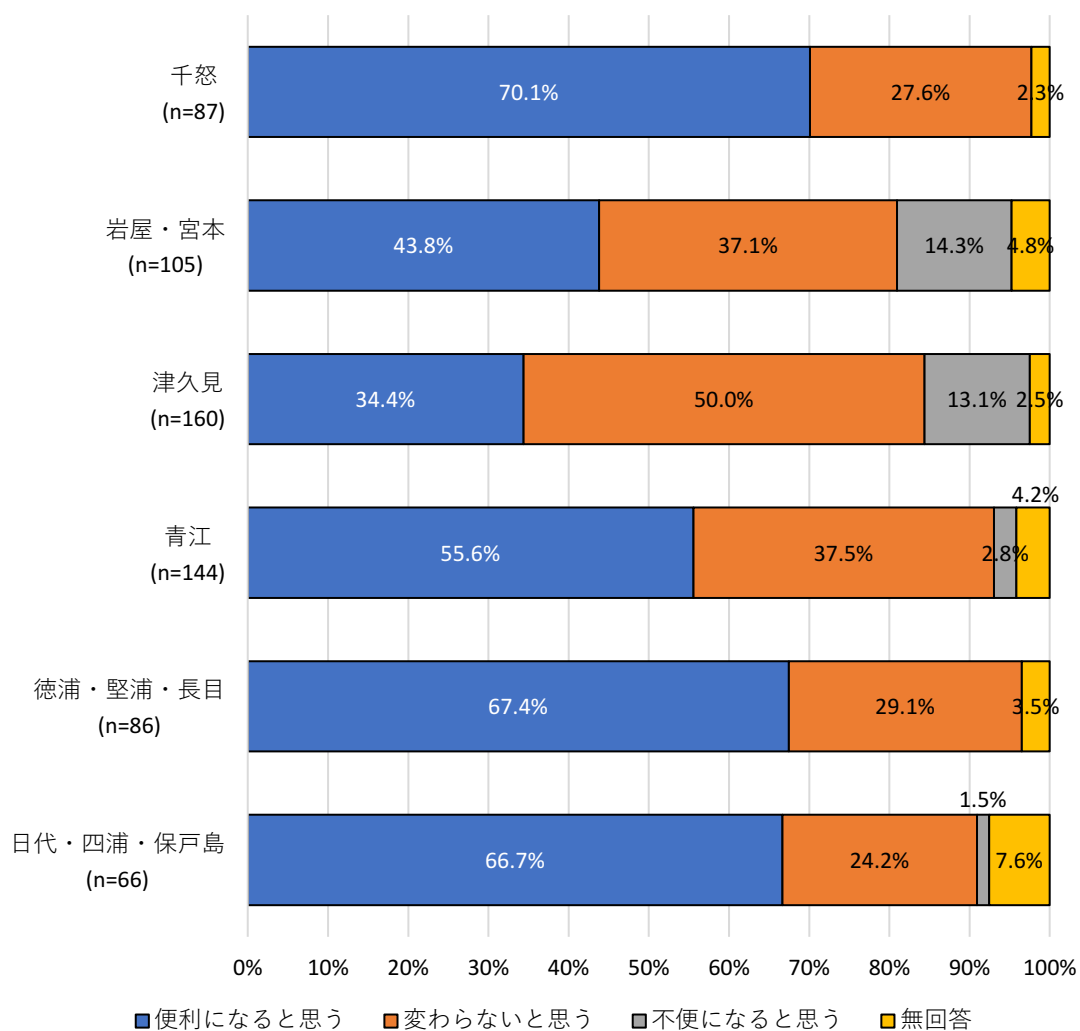


図 25 居住地区別における市役所移転時の市役所の利便性

免許の有無別について図 26 に示した。「便利になると思う」という回答は「免許あり（自由に使える自動車なし）」とした回答者において 67.3% と多かった。

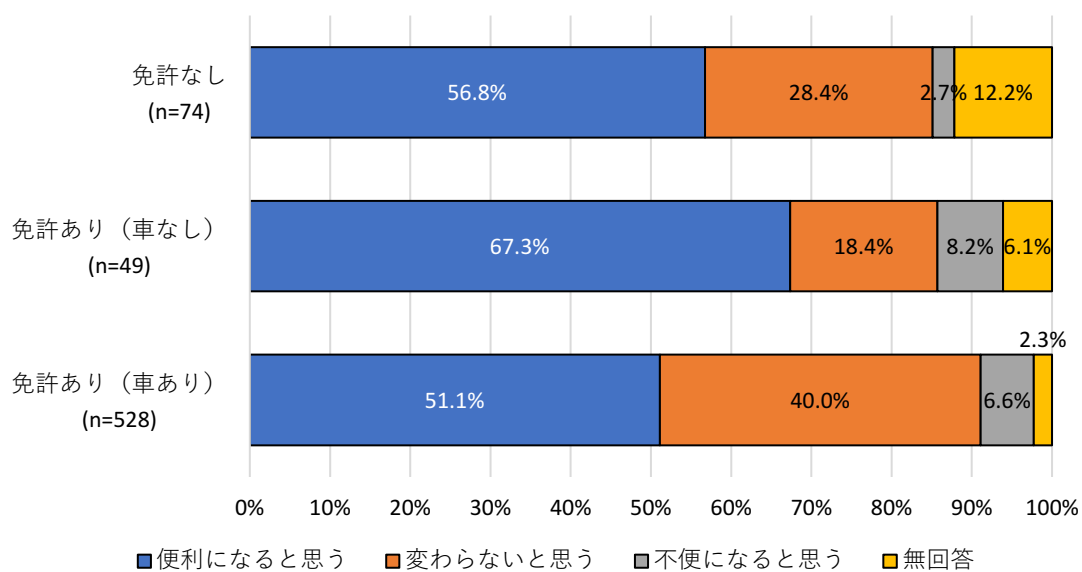


図 26 免許の有無別における市役所移転時の市役所の利便性

なお、他の施設についても属性別において分析を行ったが、本報告書においては割愛した。

## 2.3 新たな観光・休憩施設について

### 2.3.1 新たな観光・休憩施設にあると良いもの

問 6 新たな観光・休憩施設には、何があると良いと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

新たな観光・休憩施設にあると良いものについては「トイレ」が 53.0%と最も多く、「レストラン・お食事処」、「産地直売所」と続き、50%以上の回答があった。また、「お土産店」、「カフェテラス」、「バス停」、「タクシー乗り場」、「スポーツ施設」という回答が寄せられた。

「トイレ」、「レストラン・お食事処」、「産地直売所」、「お土産店」「カフェテラス」のような一般的な交流拠点施設に設けられる施設が上位を占めたが、「バス停」「タクシー乗り場」といった交通拠点となる施設を挙げる回答もみられた。

調査回答者の属性別（「年代」、「居住地区」、「車の免許の有無」）に比較を行った結果、特に年代別においては差異がみられたので、年代別の結果について表 1 に示した。全体の結果より 10%以上高い箇所を黄色、10%以上低い箇所を水色で表している。

新たな観光・休憩施設にあると良いものについて、20 歳代では「スポーツ施設」の回答が最も多かった。「バーベキュー場」、「オートキャンプ場」、「カフェテラス」、「キッズスペース」の項目では割合が全体と比較し、10%以上高かった。30 歳代では「レストラン・お食事処」の回答が最も多かった。「キッズスペース」、「授乳室・おむつ替えスペース」、「スポーツ施設」、「バーベキュー場」の項目では割合が全体と比較し、10%以上高かった。40 歳代と 60 歳代では「産地直売所」の回答が最も多かった。50 歳代では「トイレ」の回答が最も多かった。70 歳以上では「産地直売所」の回答が最も多く、「バス停」、「タクシー乗り場」、「絵画や作品などが展示できる場所」の項目では割合が全体と比較し、10%以上高かった。

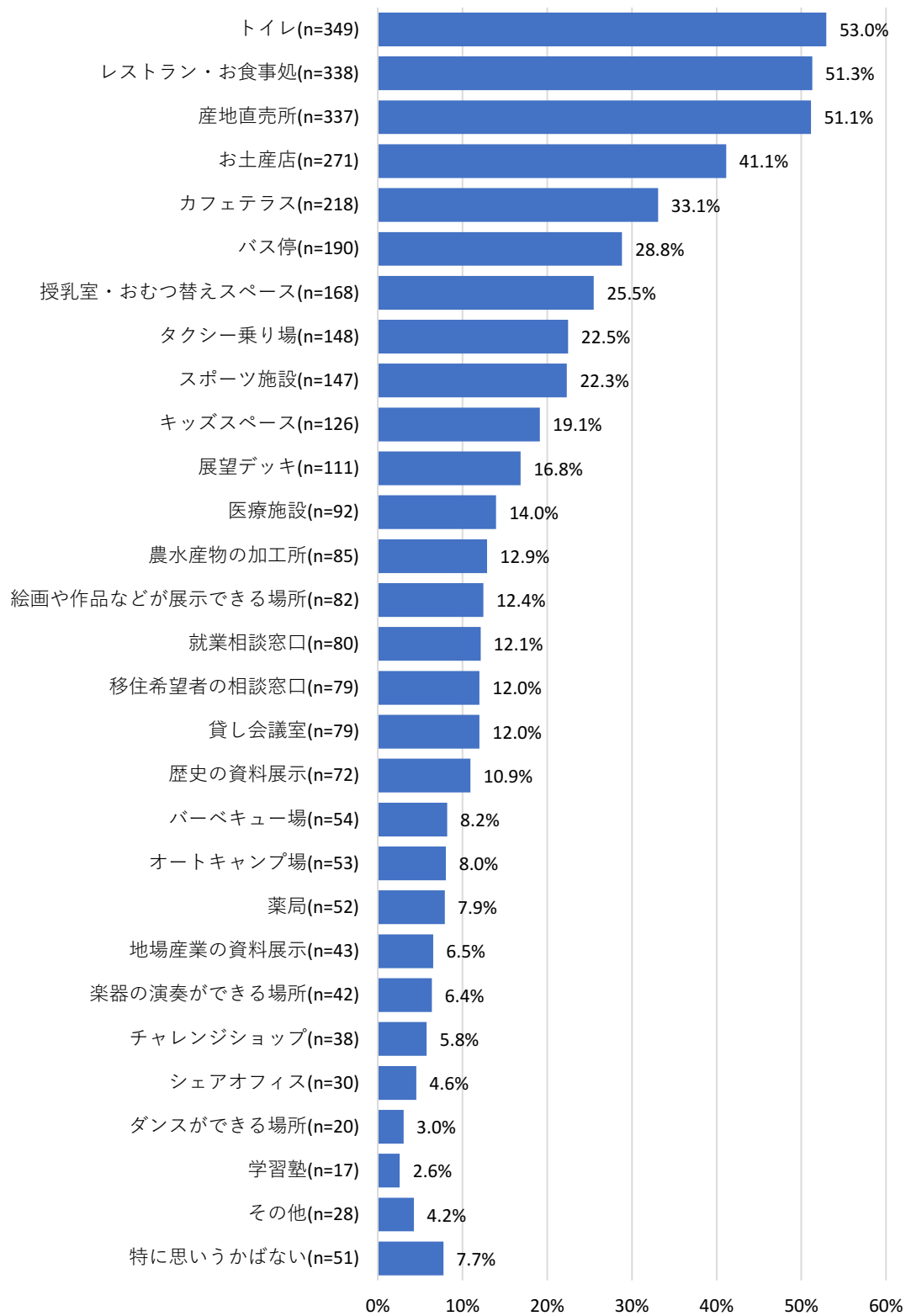


図 27 新たな観光・休憩施設にあると良いもの（複数回答可）

※割合は有効回答者数（n=659）に占める割合

表 1 年代別における新たな観光・休憩施設にあると良いもの

	全体 (n=659)	20代 (n=40)	30代 (n=97)	40代 (n=127)	50代 (n=145)	60代 (n=134)	70以上 (n=102)
トイレ	53.0%	35.0%	55.7%	52.8%	53.8%	57.5%	52.9%
レストラン・お食事処	51.3%	50.0%	56.7%	52.0%	51.7%	50.0%	48.0%
産地直売所	51.1%	35.0%	38.1%	58.3%	51.7%	59.7%	52.9%
お土産店	41.1%	30.0%	45.4%	43.3%	41.4%	44.8%	35.3%
カフェテラス	33.1%	45.0%	45.4%	40.9%	33.1%	26.9%	17.6%
バス停	28.8%	27.5%	28.9%	18.9%	31.0%	27.6%	43.1%
授乳室・おむつ替えスペース	25.5%	15.0%	43.3%	23.6%	27.6%	23.1%	17.6%
タクシー乗り場	22.5%	25.0%	17.5%	21.3%	20.0%	21.6%	33.3%
スポーツ施設	22.3%	55.0%	35.1%	23.6%	15.9%	19.4%	8.8%
キッズスペース	19.1%	30.0%	40.2%	18.9%	15.9%	12.7%	8.8%
展望デッキ	16.8%	12.5%	13.4%	18.9%	16.6%	17.2%	19.6%
医療施設	14.0%	20.0%	9.3%	11.8%	15.2%	14.2%	15.7%
農水産物の加工所	12.9%	5.0%	10.3%	16.5%	14.5%	14.2%	10.8%
絵画や作品などが展示できる場所	12.4%	12.5%	10.3%	5.5%	9.0%	17.9%	22.5%
就業相談窓口	12.1%	15.0%	15.5%	16.5%	12.4%	9.7%	6.9%
移住希望者の相談窓口	12.0%	12.5%	16.5%	15.7%	9.0%	8.2%	12.7%
貸し会議室	12.0%	12.5%	12.4%	12.6%	13.1%	8.2%	13.7%
歴史の資料展示	10.9%	5.0%	7.2%	7.9%	9.0%	14.2%	20.6%
バーベキュー場	8.2%	32.5%	19.6%	7.1%	4.1%	4.5%	0.0%
オートキャンプ場	8.0%	27.5%	14.4%	9.4%	4.1%	6.7%	0.0%
薬局	7.9%	5.0%	7.2%	7.1%	7.6%	9.7%	9.8%
地場産業の資料展示	6.5%	5.0%	6.2%	6.3%	5.5%	7.5%	8.8%
楽器の演奏ができる場所	6.4%	5.0%	4.1%	11.0%	4.8%	8.2%	3.9%
チャレンジショップ	5.8%	5.0%	7.2%	7.1%	9.0%	1.5%	4.9%
シェアオフィス	4.6%	2.5%	5.2%	8.7%	3.4%	1.5%	4.9%
ダンスができる場所	3.0%	2.5%	6.2%	5.5%	2.1%	2.2%	0.0%
学習塾	2.6%	2.5%	4.1%	6.3%	1.4%	0.7%	1.0%
その他	4.2%	10.0%	6.2%	5.5%	2.8%	3.7%	2.0%
特に思いうかばない	7.7%	2.5%	6.2%	4.7%	10.3%	9.7%	7.8%

(黄色：全体より 10%以上高い、水色：全体より 10%以上低い)

### 2.3.2 新たな観光・休憩施設の想定される利用頻度

問 7 新たな観光・休憩施設ができれば、どのくらい利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

問 6 において、「特に思い浮かばない (n=51)」とした回答者を除く、回答者 608 名を対象に新たな観光・休憩施設の想定される利用頻度を問うた。「月に 1 回以上」が最も多く、「わからない」、「年に 1 回以上」、「週に 1 回以上」と続いた。

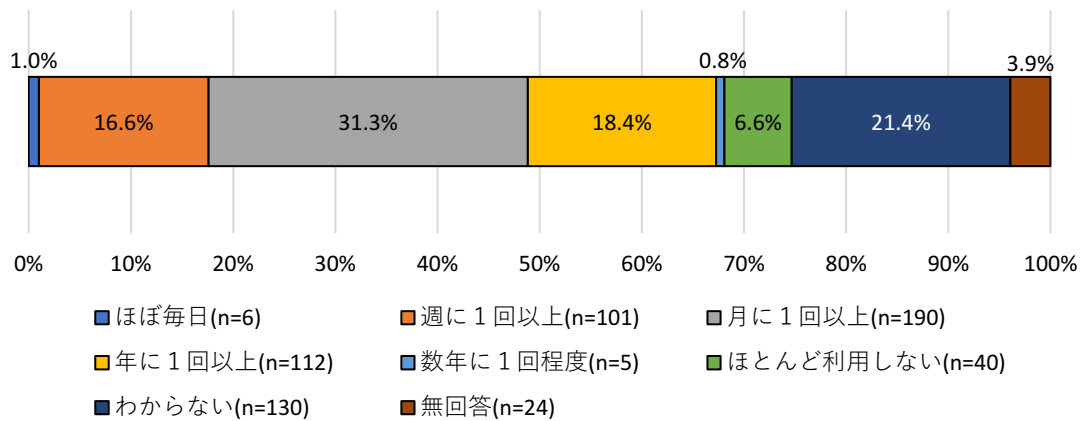


図 28 新たな観光・休憩施設の利用頻度について (n=608)

### 2.3.3 周辺地域の観光経験の有無について

問8 過去1年間に、周辺の地域（臼杵市・佐伯市などの大分県南、延岡市・日向市などの宮崎県北）で、観光をしましたか。どんな観光をしましたか。（あてはまるもの全てに○）

過去1年間に周辺の地域を「観光した」という回答が73.3%であり、「観光していない」という回答（23.2%）より多かった。

どのような観光をしたかについては、「レストラン・お食事処を利用した」が最も多く、「ドライブをした」、「観光地・スポットに行った」が続いた。

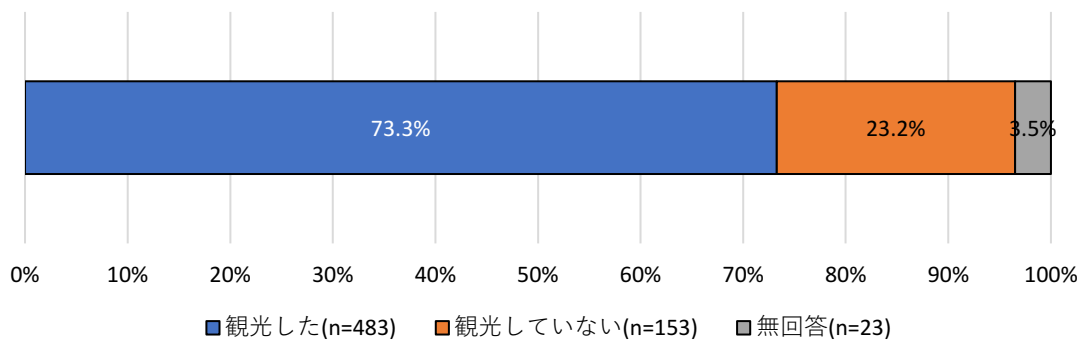


図 29 過去1年間に周辺の地域を観光したかどうかについて (n=659)

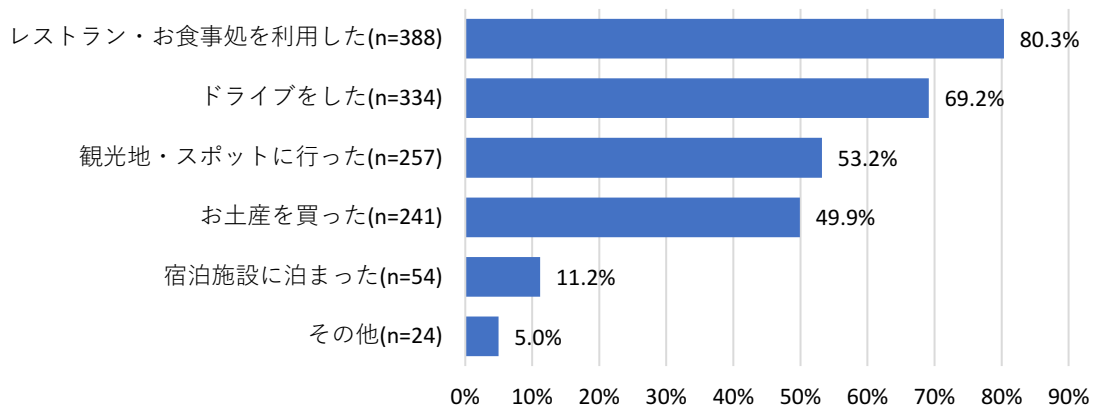


図 30 どのような観光を行ったかについて（複数回答可）

※割合は観光を行ったとした回答者（n=483）に占める割合

### 2.3.4 周辺の地域を観光した際の不満について

問 8-2 このとき不満に感じたことはありますか。どんな不満ですか。(あてはまるもの全てに○)

「観光した」と回答した方に不満に感じたことについて問うたところ、「不満に感じたことがある」との回答が 39.1%であった。具体的な不満としては「トイレ」が最も多く、次いで「レストラン・お食事処」、「道路」、「観光案内」と続いた。

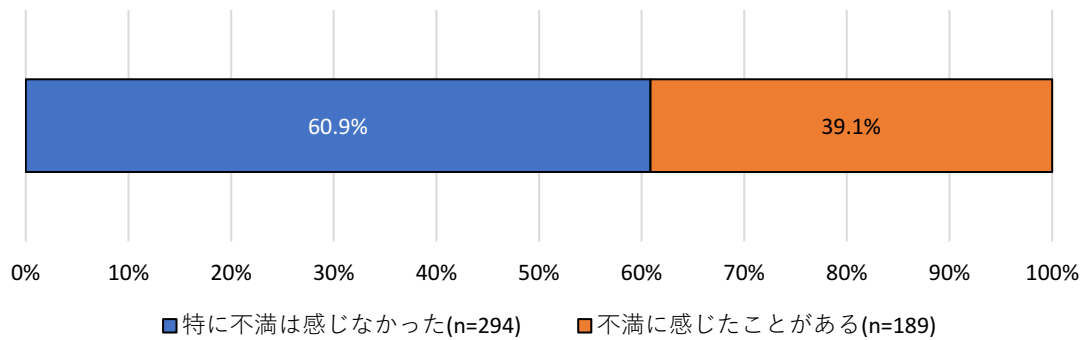


図 31 観光における不満の有無 (n=483)

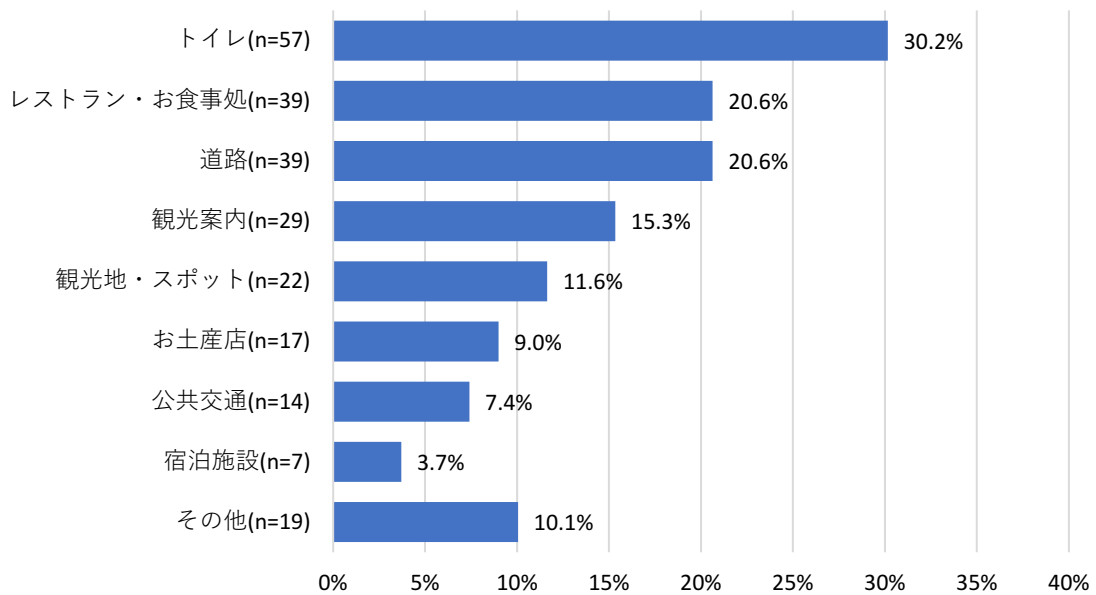


図 32 観光の際に感じた不満について

※割合は不満に感じたことがあるとした回答者 (n=189) に占める割合



新たな津久見市にぎわい創出拠点創造事業

【観光・休憩施設（集客交流拠点）に関する市民意識調査分析】

【アンケート調査実施】

津久見市経営政策課、津久見市商工観光・定住推進課

【アンケート調査分析】

九州産業大学地域共創学部地域づくり学科 講師 行平真也